県左官業協組総会

後継者育成の推進柱に

経営者研修会の開催などを盛り込んだ総会＝鹿児島市のパレスイン鹿児島で

県左官業協同組合（川路益満理事長）は21日、鹿児島市のパレスイン鹿児島で第41回通常総会を開いた。後継者育成の推進などを柱とする21年度事業計画を決めた。

議事では、20年度事業報告および同決算書類等、21年度事業計画案、同予算案などを審議、原案通り可決承認した。事業計画では、新材料・工法講習会や経営者研修会の開催、安全パトロールや奉仕活動の実施。さらに国民健康保険組合への加入促進、事業開発や材料購買協力体制の推進などを盛り込んでいる。

川路理事長は冒頭挨拶に立ち「今年3人の訓練生の受け入れができた。後継者がいなければ業界の将来はない」と述べ、若手育成の重要性を強調した。

新規加入組合員等は次の通り。

【新規加入】㈲山崎ケント（山崎光良）篠原安工業㈲（篠原安男）山王工務店（山王文夫）

【売り上げ協力事業者表彰】1位＝㈲下野工業▽2位＝㈱カケガミ▽3位＝㈲トウ建産業▽4位＝大平工業㈱▽5位＝櫨山建塗工業

県建設業協会加治木支部現場見学会

加治木工生 妙見トンネルを歩く

社会基盤整備の大切さなどを学んだ見学会＝霧島市の現場で

県建設業協会加治木支部（木山裕継支部長）は20日、県姶良・伊佐地域振興局管内の現場で高校生現場見学会を実施した。

参加した県立加治木工業高校土木科1年生40人は、社会基盤整備の大切さなどを学んだ。

見学会には岩澤英司理事（大英建設㈱）や淵脇伸監事（淵脇建設㈱）、福永壽事務局長、振興局職員も同行し、生徒らとバスに乗り込み、5現場を目指して出発した。

午後に訪れた霧島市隼人町妙見の道路改築（妙見工区）整備では、担当者が事業目的や現状、課題等を説明。その後、開通した妙見トンネル内を北側から南側へ歩きながら見学した。生徒らは完成前にトンネル内を歩く体験ができて満足そうだった。また、生徒らは「トンネルが供用される時期はいつですか」、「総事業費などはどれくらいになるのですか」など積極的に質問していた。

見学会一行は午前中、霧島市横川町の急傾斜地崩壊対策工事（上尾田2）や伊佐市大口曽木の県単道路整備（交付金）（曽木工区）などの現場も見学した。参加した生徒は「貴重な体験とともに、社会基盤整備の大切さなど改めて認識しました」と感想を話していた。

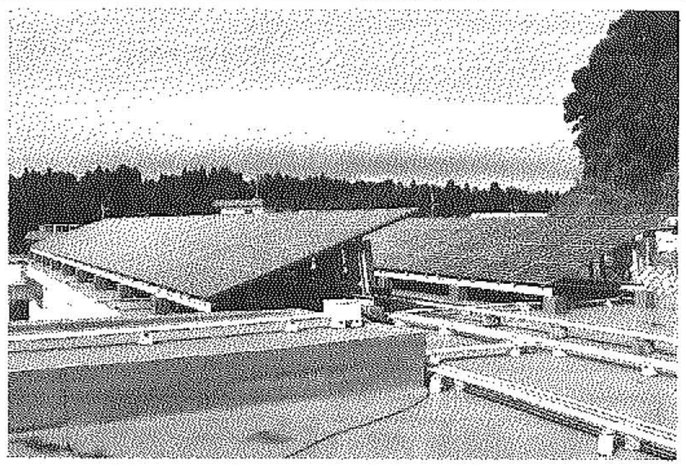
知覧保養院、太陽光発電設備を導入

地球温暖化防止に貢献

医療法人尚和会・知覧保養院（南九州市）はこのほど、40kWの太陽光発電設備を導入した。設備を活用して地球温暖化防止に貢献するとともに、普及啓発にも努めていく。

同院の場所は同市知覧町永里2082。診療科目は精神科、心療内科、内科、皮膚科があり、ベッド数は149床。昭和56年3月に太陽熱温水器を設置し、19年8月まで利用してきたが故障。さらに設備老朽化のため、暖房熱源を灯油ボイラーからエアコンに切り替えており、電気使用料の増加が懸念されていた。

導入には、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO技術開発機構）の地域新エネルギー等導入促進事業に応募し採択。同院の屋上に太陽電池モジュールを144枚設置した。太陽光発電システムは京セラ製で、施工は阪東機工が担当。総事業費は温水器撤去を含め約3900万円。



トータル40kWの太陽光発電モジュール＝南九州市の知覧保養院で

井上純一事務長は、「太陽光発電設備の導入によるCO2排出量の削減で、地球温暖化防止や環境の改善に少しでも貢献していきたい。また、設備の寿命が長く、ランニングコストも低くて済むことから、経費節減も期待している」と話した。

ハマボウ群落散策路開通式

癒しと安らぎの場に

完成を祝いテープカットする関係者

「自然と文化の共生できる町を」―。県南薩地域振興局（田村洋一局長）が進める地域振興推進事業「ハマボウ群落散策路」の完成式典が21日、南さつま市加世田益山の現地で行われ、出席者全員で同事業の完成を祝った。

同地区は、天然記念物のハマボウやハクセンシオマネキなど絶滅危惧種に指定された希少生いるほか、クロツラヘラサギなどの越冬地にもなっている。19年2月にハマボウが生息する群落と干潟生物群集が国の天然記念物に指定。また、上ノ山橋上流域から河口部までの公園区域が、第2種特別地域に指定されたことを受け、「南薩ふるさと山河ルネッサンス事業」を創設。その第1号として、同地区の環境整備「ハマボウ群落散策路整備事業」に着手し整備を進めてきた。総事業費は1230万円。

式には、田村局長をはじめ種子島時邦同局建設部長、川野信男南さつま市長、本坊輝雄県議会議員、田之上齊県南薩教育事務所長らのほか、地元の益山小学校の児童ら12人が参加した。

冒頭、田村局長が「この地が、人々に愛される場となることを祈念したい」と挨拶。来賓の川野市長や本坊県議らが「この素晴らしい環境を多くの人々の目に触れて、癒しと安らぎの場として活用されることを祈念したい」などと祝辞を述べた。

テープカットの後、ハマボウが群生する干潟地区一帯を出席者全員で散策した。

吉田で通水記念式典

祝100人が うる 900戸に水供給

鹿児島市水道局

鹿児島市水道局は、吉田地域の安定給水を図るため吉野地域から約10kmの水道連絡管を布設し、21日から通水を開始した。同日、吉田福祉センターで通水記念式典が行われ、関係者約100人が参加し通水を祝った。

工事経過報告のほか、工事や設計に携わった業

時には濁りが発生していたため、同局では

19年度から約4億6500万円をかけ、川上町の乙女塚配水池から西佐多町の婦ノ木ポンプ所までの約10・4kmに水道連絡管を布設。既設と新設の水道を併用することで安定した給水が可能になった。給水対象地域は西佐多町、東佐多町の一部約900戸。計画最大送水量は1日1100㎥となっている。

に、森博幸市長から感謝状が贈られた。また場所を近くの支所前に移して通水セレモニーがあり、本城小学校の児童らが見守る中、森市長らが放水バルブを回し通水を開始した＝写真＝。

これまで、旧吉田町が整備した簡易水道を利用していたが、渇水期になると量が減り、

鹿児島寺岡オートドア 自動ドアメーカー全機種に対応

マルチゲート ロックシステム開発

鹿児島寺岡オートドア㈱（米澤卓社長）は既存の自動ドアメーカーの全機種に対応可能なマルチゲートロックシステム＝写真＝を開発した。低コストによるセキュリティーアップを実現、快適な安心技術の普及に期待を寄せている。

同システムは、電気式電磁錠と警報装置を基本にセット。電磁錠の吸着力は約300kgあり、また、異常な力が加わると、大音響と光による警報装置が作動し、不審者の侵入を防ぐ。

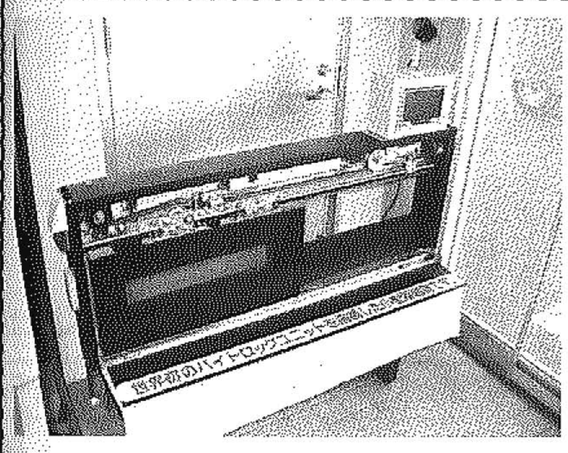
開発した新システムの基本セットは、施工費込みで15万円程度。ほかに、指紋認証やカード方式による開錠装置、監視用カメラ、入退出履歴記録装置や遠隔操作を行うインタホンなどがオプションとして選べる。

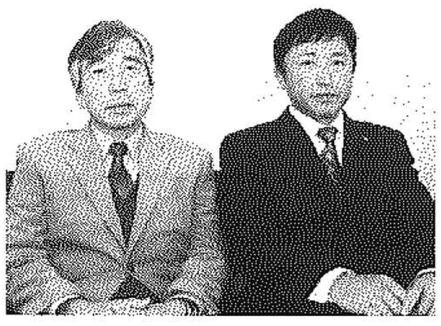
同システムは引き戸が有効だが、開き戸にも装着可能。さらに、障子やふすまなど電気を引くことが可能な場所すべてに使用できる。

米澤社長は、開発に当たり自動ドアに求められる課題などについて、エンドユーザーへの独自のマーケットリサーチを実施、「低価格によるセキュリティーアップが実現できる」と太鼓判を押す。

米澤徹専務は「高価格のためセキュリティー確保に踏み切れないユーザーさんが多かった」と開発に取り組んだ理由を語った。

問い合わせは、同社（☎099・210・1382）まで。





セキュリティーアップが実現できる―と話す米澤社長（左）と同専務